

# そうぞう×そうぞう

—創造的な学びを想像する—

チーム・バチケタ

タケチ

チバ



わたしたちは、TCSという学校で、創造的な学びをしている子供たちがいることを知った。そしてどうやら、TCSでは子供たちが中心となって学びを進めているらしい。そんな、まさか！わたしたちの知っている学校は、先生が教えてくれることを学び取る場所。市川先生からもらったヒントを元に、TCSで行われている、創造的な学びの謎を想像してみた。

## TCSの学びはこんなところが面白い

- みんなが創造的な学びを楽しんでいる。
  - ・活き活きとした発表会での様子
    - ミッションの成功、そこからの気づきの発表に自信があふれている
  - ・自分たちで悩んで気づき、やり方を変えている様子
- 大人の自分たちも使える様な気づきにあふれている
  - ・「ない」（わからない、できない、おわらない）ことを歓迎する。
    - 大人は、これらが「ない」と、不安になってしまう
  - ・どうやったら伝わるか、徹底的に見直している。
- 発想や表現のおもしろさ
  - ・覚えやすくするために替え歌
  - ・五感に訴えるプレゼンテーション



## TCSの創造的な学びの謎を想像する

- ひろげる際に、どんどん意見が出せる環境になっているのは、他の人を尊重する文化が定着しているからではないか？
  - ・発言するのが恥ずかしい人がいることに気づき、その点を分析している。
    - 残る謎：「恥ずかしい」という経験をしたからこそ、恥ずかしいという気持ちもなくすることが大事と思ったのではないか？
- しぼる際に、相手の気分が悪くならないコツを掴んでいる。面と向かって意見を否定されると、自分が否定されているみたいで気分が悪い。でも、メモを見ながら意見を否定すれば気分が悪くならず、意見を絞ることができる、と認識している。
  - ・しぼる際に、やる気をへらす「注意」より、やる気を出させる「挑発」の方がよさそうであると気づいた。
    - 残る謎：「挑発」を重視する環境はどうやって作られているのか？「挑発」が機能するという体験が蓄積されているからではないか？
- ためす際に、トラブル発生をネガティブなことと捉えず、ポジティブに捉えている。
  - ・トラブル発生！＝どうしよう(´Д`)となるのではなく、トラブル発生！×楽しむ＝ひらめきという公式がからだに染み付いている。
- 「ひろげる」「しぼる」「ためす」という学び方が自然にできる
  - ・学校全体で学び方を共有できる仕組みがある
    - 学年をまたいで学びを共有しているからではないか？

## 先生の役割を想像する

わたしたちが受けてきた教育の中での先生との違い  
わたしたちが知る「先生」は、教壇立ち子供たちに向けて解説をすることが中心。それに対してTCSでは、ゆさぶりや記録を通じて、子供たちの学びを支えている

- ゆさぶり  
先生もゆさぶることで、子供たちのアイデアを広げたり深めたりしている。その結果、自分たちが何をするかをみんな強く意識し、共有することができる。  
→残る謎：このゆさぶりが効果を発揮する環境には何が必要か？
  - 1) 先生⇄子供たち相互の信頼関係？
  - 2) 予めゆさぶりの種類とその効果を想定しているのか？
  - 3) 子供たちは先生のゆさぶりが入ることを期待しているのか？

- 記録  
ゆさぶって出たアイデアをすべて書き留めて、子供たちが使える様にしている。  
→残る謎①：まとめる際の言葉選びは、子供たちを大人として扱っている？  
ホワイトボードに英語や一般的な小学校では使わない言葉が並び  
→残る謎②：英語の単語を多用しているのはなぜだろうか？
  - 1) 日本語にマッチするものがないから？
  - 2) 英語の方が世界に向けて発信しやすいから？

TCSのみなさんが貴重な学びの風景を披露してくださったことに対する感謝します。また、替え歌で覚えやすくするというアイデアが素晴らしいことに敬意を表して、自分たちでもTCSの創造的な学びが定着している秘密を想像して、替え歌にしてみました。

広げて、絞って、試すのを  
ずーっと続けて みてみると  
みんなと続けて みてみると  
自然に 定着 しているよ  
(めだかの学校のメロディーで)